

2010年度第3回 煙制御設計小委員会 議事録(案)

記録担当 中濱

- A. 日時 2010年7月8日(木) 18:00~20:00
- B. 場所 建築会館 308 会議室
- C. 出席者 森山主査, 山田幹事, 山名, 油野, 峯岸, 仁井, 山口, 長岡, 中濱 計9名
(順序不同, 敬称略)

D. 配布資料

- ・No. 3-1: 委員会議事次第(森山) ・No. 3-2: 小委員会設置申請書(森山)
- ・煙本1章~7章まで各自印刷

E. 審議事項

1. 煙本のスケジュール

- ・7/22: 防火本委員において、煙本の査読者が3名決定(上原氏、笠原氏、中村氏)。
- ・9月上旬: 査読者からの内容報告(既に山田幹事から、各章関係者に査読結果連絡済み)。
- ・10/22: 刊行委員会(最終原稿の提出)。
- ・10月末: 脱稿。
- ・3/1午後: 煙本の解説(場所: 建築会館ホール)。

2. 各章の内容確認

(1) 用語の統一

- ・「エレベータ」または「エレベーター」→「エレベーター」
- ・「ダンパ」または「ダンパー」→「ダンパー」
- ・「出火室」または「火災室」、「建物」「建築物」「ビル」、「など」または「等」
→特に統一しない?
- ・数字の表記方法は、章内では統一しておく。

(2) 1章 煙制御の目的と考え方

- ・図1.2.3(消防活動拠点の絵)および図1.2.4(階段を利用した消防戦術)の出典を調べる。
→森山主査が対応予定。図1.2.4は他章でも似た図があるので転用する。
- ・図1.3.4(加圧防煙の遮煙条件)は、温度や密度分布の記述を削除する。

(3) 2章 煙制御設計の方法

- ・ α の意味が3種類(火災成長率、流量係数、火災拡大率)ある。区別すると資料修正が大変。
→文脈を読み進めると区別が可能。このままの表記とする。
- ・避難完了後の扉閉鎖と排煙のための給気経路確保を、どう扱うか。
→43頁の真ん中の行「地階や気密性の高い建物では~排煙のための給気口・経路を意識して計画する必要はある」は記述を残す。
- ・44頁のc)の記述(出火階より上方の階での排煙)は解決法が無いため、記述を削除する。

(4) 3章 煙制御設備

- ・以下の部分を追加した。

- ・ 130 頁の図 3. 3. 19 (小規模ビルの避難扉開閉障害防止対策)
- ・ 145 頁の図 3. 5. 4 (付室等の排煙：スモークタワー)
- ・ 158 頁 3. 6 章 階段加圧防煙設備
- ・ 173 頁の連動制御は、根拠となる法規を明記する。

(5) 4 章 空間別・用途別の煙制御設計

- ・ 184 頁上段での「寒冷地では機械排煙が望ましい」部分の記述は削除する。
- ・ 200 頁の図 4. 2. 3 が見難いので修正する。なお図と文章との整合も確認する。
- ・ 207 頁の「防災製品」の扱いをどうするか。→ カーテン類のみ残し、シート類は削除。

(6) 5 章 煙流動の基礎知識

- ・ 「爆発」に関する記述を削除した。
- ・ 以下の部分を修正する。
 - ・ 248 頁の最後行：2 つ目の $m_{in} \rightarrow m_{out}$
 - ・ 252 頁の図 5. 4. 7：プリューム → プルーム

(7) 6 章 避難計画の基礎知識

- ・ 文献 13) の出典を変更する (大阪市消防局)。
- ・ 文献 14) の表記方法の可否について、神先生へ問い合わせる。

(8) 7 章 加圧防排煙設備に関する告示の解説

- ・ 式番号の記入、および単位は [] で記述する。
- ・ 286 頁の表 7. 1. 1 (各ルート別の煙制御方式の内容) の非常用 EV 乗降ロビーのルート B は、表中の表記であっているのか。→ 加圧防煙設備は、告示 1833 号に含まれている。
- ・ 298 頁の扉開放力 100N 以下の部分は、関東支部の内容を紹介する (松山先生)。

(9) その他

- ・ 写真の著作権は、田中先生に確認を取る。

3. 次回の宿題

- (1) 原稿の修正と査読者別の回答書作成 ← 出来れば
- (2) 煙本の表紙のデザイン
- (3) 今後の活動内容
- (4) 見学すべき建物の有無・提案

以上

次回の委員会は、2010 年 9 月 16 日 (木) 18:00~20:00 まで、本会会議室で開催します。

議題 (1) 煙本の査読結果の確認

(2) その他話題提供 等

(社) 日本建築学会 〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20 TEL 03-3456-2051 FAX 03-3456-2058